

地域内フィーダー系統 事後評価要約版(30年度)

支局	No.	自治体・協議会名	二次評価
		事業概要	
		自己評価	
		中津川市地域公共交通会議	<p>地域公共交通網形成計画において住民や利用者にも分かりやすく目標を設定され、バスの経路検索やデジタルサイネージの導入、パーク&ライド駐車場の整備など着実に計画を推進されていることを評価します。</p> <p>また、バス通学を推奨するチラシの作成・配布、クリスマスバスの運行などターゲット層の利用に繋がる事業を積極的に実施していることも評価できます。</p> <p>今後は住みよいまちづくりを目指して、訪日客を除いた利用者数や収支率でもチェックするなど評価手法を見直し、持続可能な地域公共交通の確保・維持について引き続き努められるよう期待します。</p>
岐阜	43	矢平線、若山線、新田線、本郷線、上之平・下組線、黍生・麻生線、上野線 他	
		中部様式並びに本省様式による	

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

フィーダー系統 平成29年6月27日 確保維持計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿（Plan）

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で**公共交通網の維持が困難**に
 - ✓ 自動車利用増（2.33台/世帯、全国1.41台/世帯）
 - ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,027人、高齢化率31.7%）
- ②誰もが**わかりやすい公共交通**となっていない
 - ✓ バスを利用する外国人旅行者増大も案内不足
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③**運転手不足**で公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通網形成計画（2018.3策定）

- 基本方針
 - ✓ **住んでよかった、住んでみたい街に**
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2022年度までの5年間



目指す姿とは 利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、タクシーを活用したお出かけの推進 など
②観光と利用促進	インターネットによる経路検索の充実、クリスマスバス、利用促進イベント開催、公共交通を使った市内観光の推進 など
③運転手不足の解消	女性限定運転手体験会 など

■ 今年度実施した主な取り組み

★経路検索の充実

バスデータを活用した「バスの活性化」に取り組む



★市内観光の推進

市内の観光地へのお出かけ情報をチラシ、動画、HPで発信



JR高山線不通時に中津川駅～下呂駅間のバス利用をPR



★パーク&ライド



★クリスマスバス



★地域懇談会で利用促進



地域の公共交通網を守るため、交通事業者や地域の関係者と協働で取り組んでいます！



3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

■ 地域公共交通網形成計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①住民や来訪者による公共交通利用者を確保する
 - ②いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）ことを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、網形成計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 自己評価は平成31年1月11日に開催した中津川市公共交通会議で承認を受けた。

■ 地域公共交通網形成計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標	2016年度 (基準年度)	2022年度 (目標年度)	2018年度 (実績)	評価
①住民1人あたりの公共交通年間利用回数※	8.6回/人	8.6回/人以上	8.7回/人	👑 達成
②北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	30.6%	30.6%以上	31.5%	👑 達成

※住民1人あたりの公共交通年間利用回数は、公共交通利用者数を住民1人あたりに換算して算出するものであり、公共交通利用者数は中津川市内での移動を反映するため、下記を合計した数としている。

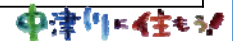
- 北恵那バス年間利用者数
- 明知鉄道阿木駅と飯沼駅の年間乗降者数
- 自主運行バス年間利用者数（補助対象系統を含む）



■ 目標達成状況についての考察 (路線別の事業評価概要)

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 網形成計画の評価指標との整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上

区分	目標達成 系統数	利用人数 (人)	主な考察・備考
民間路線バス (補助系統)	5 / 8	2016 (基準) 206,241 2018 (実績) 228,268 達成率 110.7%	○ 外国人旅行者の増加により、特に馬籠線の利用者数が増加。あわせて現金収入も増加 ○ 学生ホリデー切符 (休日・長期休暇中の小中高生500円乗り放題) の発売で、中津川市街から福岡・加子母方面への学生利用がみられるようになった
民間路線バス (非補助系統)	10 / 15	2016 (基準) 320,260 2018 (実績) 306,821 達成率 95.8%	× 頻繁に利用されていた方が利用なくなるなど、 高齢化による利用者減少 がみられる × 小中学生数の増減が通学利用者数に直結する
民間路線バス (市自主運行分)	1 / 4	2016 (基準) 54,181 2018 (実績) 53,296 達成率 98.4%	
コミュニティバス	15 / 29 (6/13)	2016 (基準) 23,275 2018 (実績) 22,735 達成率 97.7%	○ 落合、蛭川地区は 改編効果 が出て増加 × 小中学生数により利用者数が大きく増減する × 頻繁に利用していた方が利用なくなる (カッコ内はフィーダー補助対象系統)
明知鉄道乗降者数 (阿木・飯沼駅)	-	2016 (基準) 85,680 2018 (実績) 75,483 達成率 88.1%	○ 通学利用は前年度を上回った × 料理列車の利用は天候の影響もあり減少した
合計	31 / 56	2016 (基準) 689,637 2018 (実績) 686,603 達成率 99.6%	○ 人口減少している割には利用は維持 されている 【参考】住民基本台帳人口 2016 (基準) 80,399人 2018 (実績) 78,942人 (▲1.8%)



中津川市地域公共交通網形成計画に基づく
事業実施を引き続き推進します！

**取り組み
その1** 田舎のバスもネットで検索！
観光と利用促進にバスデータを活用

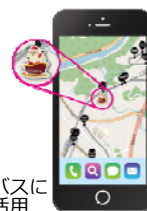
課題 観光客向けの活用効果に比べ、住民向けのアピールが不足。
クリスマスバスにバスロケを活用

対応 市民が興味を持ちやすい施策に活用することで、インターネット**経路検索をPR**
 ・単なる移動手段ではない「**愉しみの公共交通**」の創出と、公共交通の**魅力**を引き出す
 ・中心市街地活性化基本計画との整合を図りつつ、データを活用したサイネージ等の検討

**取り組み
その2** 公共交通を選択してもらおう！
学生のバス通学者を増やします

課題 市街地から比較的近い地域の高校生は自家用車の送迎で通学
 ・通学に公共交通が選択されない
 ・小中学生数の増減が通学利用者数に直結

対応 高校へ**バスで通える**ことをPR
 ・進路選択をする中学3年生向けに配布
 ・通学利用できるようコミバス延伸の検討



**取り組み
その3**

運転手不足の解消に向けて！
移住相談×運転手説明会



課題

・運転手不足が顕著に
 ・地域公共交通網の維持のためには、利用者数の確保だけでなく、運転手の確保も必要

対応

・ふるさと回帰支援センター (東京) で移住セミナーが開催されている
 ・岐阜への移住に興味を持つ方に向けて、**運転手の仕事に焦点を当てた相談会**の開催を検討



平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

フィーター系統 平成29年6月27日 確保維持計画策定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

8

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
山口地区 黍生・麻生線の運行方法見直しなど、生活特性に合わせた運行体系を構築している。	運行方法を区域運行に変更し、 利用者の利便性 の向上と合わせて 運行の効率化 を図りました。	路線や時刻改編を行う際には、今後も地域の実情に合わせ、 地域・事業者・行政が協働 で検討を行います。
多くの高校生のために地域に必要不可欠な公共交通手段として、維持継続できるよう引き続き取り組み推進を期待する。	「 高校生が自宅から高校へ通える街にすること 」を網形成計画に掲げ、高校通学利用者の確保を通じ地域公共交通網の維持に努めます。	バス通学費補助金制度の継続と、新規取り組みとして、進路選択中の中学3年生向けに バス通学を勧めるチラシ を作成し配布します。
網形成計画で実施している施策の継続実行など、できることから積極的に取り組んでいるので、引き続き運行事業者と一体となった施策推進を期待する。	網形成計画に基づく事業を「 できることから、ひとつずつ、そして着実に 」実施し、地域公共交通網の維持に努めます。	継続事業の実施と合わせ、路線バスと市コミュニティバスでの乗継割引を行うなど、 新たな取り組み も行っています。
運転士確保は重要な課題であるため、積極的な取り組み推進を期待する。	網形成計画で 運転士確保を課題 として捉えており、事業を実施していきます。	就職説明会などにおいて、 求職者と求人者のマッチングの場 を作ります。

計画を策定

アピール その1 市・協議会が主体となって作成！
中津川市地域公共交通網形成計画

- 内製**
- ・コンサルタントへ策定委託しないで自ら作成
 - ・定住推進のために公共交通にできることは何かを追求
- 効果**
- ・地域公共交通に取り組む意義や事業の役割を十分理解することにつながる
 - ・計画と事業が密接に連携できている
 - ・**実際の事業実施を円滑に**することができている



交通の計画としては異色の方針を掲げる

計画に基づいた事業を企画・実行しています！

具体的な取り組み

アピール その2 バス会社のやる気に火をつける！
クリスマスバス

- 現象**
- ドライバーの中には否定的な人もいたが…
- ・手を振られる
 - ・お礼を言われる
 - ・見に来てくれる



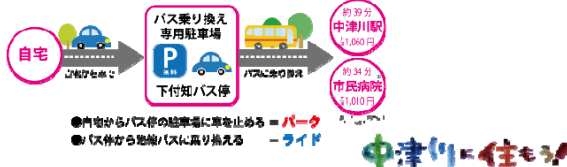
- 効果**
- ・感謝されることでドライバーの「やりがいと誇り」につながる
 - ・事業実施への協力が得られやすくなった



アピール その3 高齢ドライバーの事故を減らせ！
パーク&ライド駐車場の整備

- 内容**
- ・バス停付近に駐車場や看板設置
 - ・車に依存しない生活環境の整備

- 発想**
- 劇的に利用者は増えないが…
- ・1人でも増えればプラス！
 - ・**やれることからやる！**



具体的な取り組み

アピール その4 公共交通オープンデータ“最先端田舎”への挑戦！
インターネットによるバス経路検索の充実

- ◎標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP) データを整備
- ◎オープンデータ化で誰でも自由に活用可能に

- 背景**
- ・鉄道や都会の大手バス路線はインターネットによる経路検索が当たり前
 - ・地方のバス路線では対応が遅れている
 - ・路線バスに乗る外国人旅行者が多い

- 課題**
- ・経路検索されなければバスは走っていないのと同じ
 - ・公共交通の利用機会を失い、利用者減の一因に
 - ・多言語での案内の充実が急務

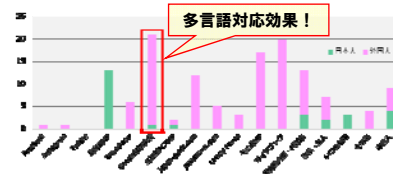
- 活用**
- ・北恵那バス(幹線)と市コミバス(支線)が**多言語で経路検索可能**に (公共交通網としての対応が不可欠)
 - ・病院で**デジタルサイネージ**による運行情報の案内
 - ・クリスマスバスを利用した**バスロケーションサービス**
 - ・**アプリ開発**や**調査・研究**にオープンデータを活用
 - ・バス事業者の**ICT活用による業務効率化**へつなげる



スマホでバスの経路検索が可能になりました

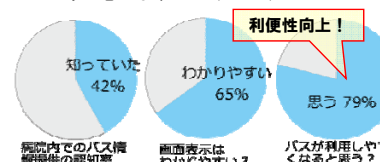
北恵那バス馬籠線アンケート

馬籠ゆきのバスについてどのようにしてお知りになりましたか？ (N=117 複数回答可)



デジタルサイネージアンケート

病院の待合室に設置されたモニターについてどのように思いますか？ (N=91)



できることからひとつずつ取り組んでいきます！

さらなるアピール 地域公共交通網形成計画の**進捗状況はWEBで公開**しています。
<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/page/070052.html>



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月11日

協議会名:中津川市公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 矢平線	・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/790人以上 実績/540人(達成率68.4%) 【考察】 ○免許返納者の定期券利用があった。 ×乗降に時間がかかる乗客が増え、高齢化しているのを実感。 ×矢平クラブの2人の利用があったが1人になった。高齢のためと考えられる。	・人口が減少する中、利用者の増加を見込むことは困難ではあるが、若い高齢者のバス利用を勧め、免許返納者へ向けたPRを行う。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 若山線	・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/263人以上 実績/203人(達成率77.2%) 【考察】 ○春夏頃に若山に向かう定期券利用者があった。 ○マレットゴルフ場を管理する方が夏に利用していた。 ×記念碑からの女性利用者2人が夏を過ぎたあたりから利用がなくなった。	・福岡地区の路線の中でも利用が少ない路線で、今年度より補助要件を満たさず補助対象路線から外れたが、利用者には必要な路線であり、国補助を継続する。 ・定期券の購入でお得に利用できることをPRする。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。

北恵那交通株式会社	【福岡地区】 新田線	・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/905人以上 実績/713人(達成率78.8%) 【考察】 ○試乗する方や今後利用したいと興味を持つ方がいた。 ×お不動様での利用が数人あったが、最近利用がなくなった。	・バスの存在を知らないという方がいるのも事実。バスの時刻表の配布、バスの乗り方も含めた周知が必要と考え、地域の産業祭で利用促進活動を実施した。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 本郷線	・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/767人以上 実績/677人(達成率88.3%) 【考察】 ○大半が定期券の利用者で、新規定期券購入者も増えている。 ×東組の男性が利用されなくなった。	・定期券利用者が多いことから、今後も引き続き定期券の購入でお得に利用できることをPRする。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
北恵那交通株式会社	福岡地区 上之平・下組線	・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・車両を小型化し、冬季でも安全に運行できるようにした。 ・地域のイベントで利用促進を実施した。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/544人以上 実績/507人(達成率93.2%) 【考察】 ○定期券利用者は横ばいだが、買い物などで利用した方が多かった。 ×小池地区の女性3人の第一金曜日の帰りは乗らなくなった。カラオケ店で送ってもらっている模様。	・定期券の利用者の確保は、利用人数の確保につながる。 ・今後も引き続き利用者が維持できるようお得なバスの利用方法や、買い物でもバスを利用できることを周知する。 ・H31年度より路線バス(幹線)とコミュニティバス(フィーダー系統)の乗継割引の実証実験を予定している。
近鉄東美タクシー株式会社	【山口地区】 泰生・麻生線	・運行方法を路線不定期運行から区域運行へ変更し、運行の効率化と、利用者も乗車時間の短縮につなげ。 ・地区集会以利用説明会を実施し利用促進を図った。	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/627人以上 実績/230人(達成率36.7%) 【考察】 ×頻りに利用していた方の利用がなくなったため、運行回数と利用人数の減少となっている。	・この系統の利用者が住む山口地区第1区は、世帯数16世帯の小さな町内会である。人が増えることもないため、1人の利用者が減ると大幅に減少となる。 ・今年度より補助要件を満たさず補助対象路線から外れたが、利用者には必要な路線であると考えているため、国補助がなくとも市としては今後も運行を継続する。 ・運行方法をデマンドの区域運行に変更したことで、利用者の利便性の向上と合わせて運行の効率化を図っている。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線	・学生の通学手段確保のため継続運行をおこなった。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／724人以上 実績／847人(達成率117.0%) 【考察】 ○通勤で利用する方が増えた。	・早朝の便であるため、通勤での利用者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線	・学生の通学手段確保のため継続運行をおこなった。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／1740人以上 実績／1281人(達成率73.6%) 【考察】 ○基準年度よりは減少しているが、前年度と比べ小中学生の利用が増えている。	・上野・外洞線と上野・外洞線(短縮ルート)は、帰宅する小中学生のスクールバスとしても利用されている。 ・地域からの要望があり、教育委員会と協議した結果、小学生が利用しやすくなるように系統の延伸とバス停設置をH31年4月に実施する。 ・このことで、さらに利用者数を確保することができるようになる。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)	・学生の通学手段確保のため継続運行をおこなった。 ・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／728人以上 実績／875人(達成率120.2%) 【考察】 ○帰宅時に利用する小中学生の利用が増えた。	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線	・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行をおこなった。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／312人以上 実績／394人(達成率126.3%) 【考察】 ○上野地内から市街地へ行く利用者が継続的にある。	・利用は目標基準年度より増えているが、今年度より補助要件を満たさず補助対象路線から外れた。しかし利用者には必要な路線であると考えるため、国補助がなくても市としては今後も運行を継続する。 ○上野地内から市街地へ行く利用者が継続的にある。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)	・学生の通学手段確保のため継続運行をおこなった。 ・既存利用者の利便性向上のためインターネットでの経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／2112人以上 実績／2491人(達成率117.9%) 【考察】 ○通学で利用する小中学生の利用が増えた。	・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)	・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行をおこなった。 ・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／300人以上 実績／386人(達成率128.7%) 【考察】 ○タクシーを利用していた方がバスの利用をするようになった。	・比較の利用が多い路線である。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	・通院、買い物にお出かけをする高齢者等の移動手段確保のため継続運行をおこなった。 ・Google経路検索などインターネットによる経路検索を充実させた。 ・坂下病院内でバスの運行情報を表示するデジタルサイネージを設置。	A	計画どおり事業は適切に実施された	【定量的達成状況】 ・利用者は基準年度(H28)以上とする。 目標／908人以上 実績／1009人(達成率111.1%) 【考察】 ○タクシーを利用していた方がバスの利用をするようになった。	・比較の利用が多い路線である。 ・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要があるため、今後も推移を見守る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月11日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。</p> <p>市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっている。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指す。</p>